

NPO法人 スポーツクラブどんぐり

サッカーを中心にスポーツを通じての人材育成をめざす「NPO法人 スポーツクラブどんぐり」。運動にも勉強にも励み、子ども自身が自分の将来を考える基礎を作り出す。幼児から大人まで約300人が所属する「フットボールクラブ アヴェニードール」を軸に、クラブ専用のグラウンドや送迎バスを持ち、ライセンスを持つコーチ陣が指導し、学童保育まである充実した組織になっています。



理事長 中田 純一さん

お問い合わせ

「NPO法人
スポーツクラブどんぐり」
TEL 0595-23-1132

お話を伺ったのは、理事長の中田純一さん。このNPOの創設者であり、一代で起こした商事会社の経営者でもあります。プロ選手として活躍し、現在「奈良クラブ」で監督を務める中田一三さんは弟。地元の未来を担う人材育成を目標に、熱い想いがあふれます。

——もともと自身がサッカーをされていたのですか。

中田：私自身は亀山高校で重量挙げの選手でした。弟の二三が中学校でサッカーに出合い、いろいろな面で成長させてもらったのです。その後、四日市中央工業高校に入り、全国高等学校サッカー

——サッカーの指導だけではなく、勉強にも力を入れていると聞きました。
中田：成績にCがある子は練習に参加できないということにしています。私は「継続できる」ということを第一に考えるのですが、勉強を頑張れない子は、サッカーも継続できない場合が多いです。チームが強くなることや優れた



勉強も頑張るサッカー少年たち※



ライセンスを持つコーチ陣による指導※



食育の一環として農作業の体験も行う※

——地域貢献が認められ、協賛企業は70社に及ぶとのこと。今後さらなる発展が楽しみです。
インタビュー：堀口裕世

選手権大会での優勝を経て、プロへの道が開けました。弟が中高生のころ、私は保護者として応援していました。選手たちを乗せたマイクロバスを運転して試合に行くなどのサポートをしていたのです。強豪校の練習法や考え方を間近に見たわけです。私自身の重量挙げ部の経験も含め、スポーツの指導について学ぶところが多かったですね。

あって、退会させたのです。そして、平成18(2006)年に弟と一緒に「中田一三サッカースクール」を立ち上げました。——それでこのチームが誕生したのですね。
中田：ところが思わぬ逆風が吹き、チームが地元のサッカー協会に属することはうまく進みませんでした。そこでNPO法人を立ち上げ、ボランティアとビジネスを融合させる方法をとりました。コーチ陣は全員ライセンスを持った公認コーチとし、組織全体は営利を求めたものではなく私たち理事は無報酬ですが、コーチやスタッフには正当な対価が支払える形を作ろうと考えたのです。

サッカー選手を育成することだけでなく、このクラブの目的は人材育成です。この子どもが大きくなり、地元で貢献してくれるのが私の夢です。自身の将来像を描く助けになるよう、OBのキャリアを子どもたちに共有するような取り組みも行っています。

童保育など多岐にわたる組織と なっていますね。
中田：スタジアムは必要ですし、ほかのことも保護者や関係者のニーズを聞いてそれを意識していると、力を貸してくれる方が現れたりして、一つひとつ実現していています。食育にも力を入れています。ダンスなどの新しい試みも生まれています。親御さんの負担のほかにも、協賛してくださる企業や一般の方からの寄付もあり、ありがたいことだと思っています。
——地域貢献が認められ、協賛企業は70社に及ぶとのこと。今後さらなる発展が楽しみです。
インタビュー：堀口裕世



ホームグラウンド「どんぐりパーク」は設備も充実

※印の写真は取材先から提供していただきました